

2018年度

事業報告書

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

目 次

I. 法人の概況	2
II. 管理事業	3
1. 役員及び評議員	3
2. 学生委員会	3
3. 会議	3
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	5
6. 事務局	5
III. 事業の実施状況	6
【公益目的事業】	6
1. Gakuvo Style Fund	6
2. 大学等連携ボランティア関連講座	10
3. 学生ボランティア派遣	24
4. セミナー／シンポジウム	30
5. インターンプログラム	31
6. 教育活動支援	33
【その他センターの目的達成に必要な事業】	
1. 情報発信事業	34
2018年度事業報告における付属明細書	41

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2015年3月11日

2016年12月15日付けで公益認定申請書を提出し、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49条）の規定に基づき、2017年6月1日に認定を受け、公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすため、学生ボランティア活動の支援を通じて、時代の一步先を目指す次世代を担う人材を育成するとともに、本邦及び海外の学生が行う公益活動への情報提供やサポートを行うことで、国内外の公益活動の活性化に寄与し、もって青少年の健全な育成と市民活動が日常となるより良い社会の形成に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 学生ボランティア活動の支援
 - (2) 学生ボランティア活動を促進するための機会提供
 - (3) 学生ボランティア活動に関する情報の収集・発信
 - (4) 学生ボランティアのスキルアップ推進
 - (5) 学生ボランティアのネットワーク構築・運営
 - (6) 各種刊行物等の販売
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

4. 所在地 東京都港区虎ノ門1-11-2（日本財団第二ビル）

5. 基本財産の額

取得価額	時価評価額	差異
3,000,000	3,000,000	0

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

II. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

II. 管理業務の6. 事務局を参照

II. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2019年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」(35頁)のとおり、理事12名(会長1名、常務理事2名、理事9名)、監事2名である。

役員の変動は、山口健一理事が任期満了で退任し、新理事として井原理代理事、二宮雅也理事が2018年6月22日付けで就任した。

(2) 評議員

2019年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」(36頁)のとおり、5名である。

2. 学生委員

第13回理事会で選任された学生委員は、別表3「学生委員名簿」(37頁)のとおり6名である。

3. 会議

(1) 理事会

① 第13回理事会

ア. 時期：2018年6月5日(火)

イ. 場所：日本財団ビル第8会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 2017年度一般財団法人としての決算および事業報告の承認
(2017.4.1~2017.5.31)

第2号議案 2017年度公益財団法人としての決算および事業報告の承認
(2017.6.1~2018.3.31)

第3号議案 2017年度通年の決算および事業報告の承認
(2017.4.1~2018.3.31)

第4号議案 理事および監事の候補について

第5号議案 定時評議員会 招集の決定

第6号議案 学生委員会委員の選任

② 第14回理事会

ア. 時期：2018年7月4日(水)

イ. 場所：笹川平和財団ビル301会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 定款第26条第2項に基づく会長及び常務理事の選定について

③ 第 15 回理事会

ア. 時 期：2019 年 3 月 7 日(木)

イ. 場 所：日本財団ビル第 8 会議室

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2019 年度事業計画及び予算について

(2) 評議員会

① 第 7 回評議員会

ア. 時 期：2018 年 6 月 22 日(金)

イ. 場 所：日本財団ビル第 8 会議室

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2017 年度一般財団法人としての決算および事業報告の承認
(2017.4.1～2017.5.31)

第 2 号議案 2017 年度公益財団法人としての決算および事業報告の承認
(2017.6.1～2018.3.31)

第 3 号議案 2017 年度通年の決算および事業報告の承認
(2017.4.1～2018.3.31)

第 4 号議案 理事および監事の選任について

第 5 号議案 その他

(3) 学生委員会

学生ボランティア支援に際し、不可欠なのは学生自身の視点である。その視点から学生ボランティアのニーズを吸い上げる目的で、2018 年度学生委員会を発足させた。委員は、センター2018 年度インターン、留学生、ボランティアに精通している者、センターのプログラム参加者、大学ボランティアセンター学生スタッフかつ地方大学在籍者の 6 名が選任された。

委員会を 3 回開催し、第 15 回理事会においては、センター事業に対して委員会での検討をもとに提案をまとめた報告書を提出した。

① 第 1 回学生委員会

ア. 時 期：2018 年 7 月 16 日(月)

イ. 場 所：センター会議室

ウ. 議 題：a. 委員へセンター設立趣旨・事業概要説明と質疑応答
b. 各委員より自身のボランティア活動についての説明と質疑応答
c. 本年度委員会で扱う審議事項の検討

② 第 2 回学生委員会

ア. 時 期：2018 年 10 月 27 日(土)

イ. 場 所：センター会議室

- ウ. 議 題：a. センター事業についての意見交換
- b. ボランティア未経験学生を活動させるための方法

③ 第3回学生委員会

- ア. 時 期：2018年12月23日(日)～12月24日(月)
- イ. 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ウ. 議 題：a. 委員個々人の活動の悩みや課題についての共有と意見交換
- b. センターへの提案内容について意見交換

4. 規程の制定等

なし

5. 届出・登録事項

(1) 内閣府へ提出

- 役員変更届の提出
- 「2017年度事業報告等」の提出
- 「2019年度事業計画書等」の届出

(2) 登記事項

役員変更登記

6. 事務局

(1) 機構

2019年3月31日現在における事務局の機構は、別表4(38頁)のとおり、2部である。

(2) 人員

2018年度は、職員に異動はなく、契約職員は1名追加となり、2019年3月31日現在における職員は1名、契約職員は4名である。

Ⅲ. 事業の実施状況

【公益目的事業】

学生が行うボランティア活動を支援するため、資金協力、スキルアップセミナー、ボランティア派遣、教育活動支援など幅広い事業を実施した。

なお、各事業の報告については、次のとおりである。

1. Gakuvo Style Fund

本事業は、ボランティアとして、単に誰かの役に立つだけではなく、活動を通して自らが成長し、社会へはばたく人材を育成することを目的として設立した事業である。「世界をよくする」という大きな目的のもと、具体的な実施計画を持ち、実施する力を持つ団体を対象に、以下の3コースを設定して、学生ボランティア団体に対して資金協力を行った。また、単なる資金提供に終わることなく、プレゼン審査会、活動報告会などを実施し、全国の学生ボランティア団体のネットワークの構築を併せて図った。

なお、本事業は明治学院大学とパートナーシップを結んだ上で実施し、運営については、本大学とセンターが事務局としての役割を担った。

Colla・vo（こらぼ） 協力金：1活動につき200,000円まで

自分の大学だけにとどまらず、他の大学の学生団体、さらには企業、行政、NPO、スポーツ団体などと「コラボ」することで、新たな活動の可能性に挑戦する学生向け。

Yuru・vo（ゆるぼ） 協力金：1活動につき100,000円まで

初めの一步を踏み出すキッカケボランティア活動。まだまだガッツリ系ではなく、「ゆるくボランティア活動を始めたい」という学生向け。

Baca・vo（ばかぼ） 協力金：1活動につき300,000円まで

活動を行う地域で発生している課題解決にどっぷりとつかり、「がむしゃら」と「ディープ」に活動している学生向け。

Gakuvo Style とは・・・

一般のボランティアとは異なり、ボランティア活動を通してボランティア自身が、日常生活の中では意識していなかった社会問題に気づき、その解決を模索し、行動に移すことによってボランティア自身が成長していくプロセス、およびその成長に重きをおいたボランティアの姿を指す。もちろん、成長するだけではなく、一般のボランティア同様、社会問題を改善していくことも重要である。

(1) 第4回 Gakuvo Style Fund

① 活動報告会

採択団体が協力金を活用した活動について振り返り、互いに共有すると共に、事務局からのフィードバックやゲスト講師による講演から、今後の活動に活かすこと

ができるヒントを得る機会として開催した。また、採択団体同士のネットワーク構築の場にもなった。

ア. 内 容：事務局からのフィードバック、Baca・vo 採択団体 aste(※)による活動報告、グループワーク、ゲスト講師による講演

※活動期間中における事務局とのやり取りや、完了報告書の内容等に鑑み、事務局にて選定した。

イ. 講 演：田中 惇敏氏

(特定非営利活動法人 Cloud JAPAN 代表理事)

第1回 Gakuvo Style Fund 支援団体の気仙沼ゲストハウス“架け橋”代表である田中氏から、支援終了後に NPO や企業を立ち上げて、社会課題の解決に取り組んでいる状況を伝え、採択団体の学生へ出来る事の可能性を広げて活動を展開していく動機付けにすべく講演を行った。

ウ. 開 催 日：2018年5月20日(日)

エ. 参 加 者：第4回 Gakuvo Style Fund 採択団体のうち55団体

※採択団体は56団体であるが、活動継続困難により協力金返還を申し出た1団体以外の55団体が参加した。

オ. 場 所：日本財団バウルーム

(2) 第5回 Gakuvo Style Fund

① 募集

センターのホームページやSNSなど、インターネット上及び全国にある大学のボランティアセンター等にポスターや募集要綱を送付して募集した。

ア. 募集期間：2018年6月1日(金)～6月15日(金)

イ. 応募団体数：Colla・vo 13団体 (2,253,000円)

Yuru・vo 19団体 (1,751,000円)

Baca・vo 48団体 (14,180,069円)

② 審査方法

ア. 書類審査

応募情報を元に、社会への貢献度、独創性、企画力、実施可能性、学生らしさ、申請コースへの適応度などといった観点から事務局にて実施した。

a. 実施期間：2018年6月16日(土)～7月10日(火)

b. 通過団体：Colla・vo 5団体 (770,000円)

Yuru・vo 13団体 (1,140,000円)

Baca・vo 16団体 (4,680,000円)

イ. プレゼン審査会

書類審査を通過した Colla・vo 及び Baca・vo への応募団体が、1活動毎に事務局

が指定した時間内で、審査委員へ向けて、応募内容のアピールポイントをプレゼンした。また、活動開始にあたって、事務局から会計処理等の注意事項や活動全般に係るアドバイス、ゲスト講師から専門的なレクチャーを受け、充実した活動へ繋げる機会とした。

a. 内 容：Colla・vo と Baca・vo によるプレゼン、事務説明会、
ゲスト講師による講演

b. 講 演：酒向 萌実氏
(株式会社 CAMPFIRE ソーシャルグッド事業部マネージャー)
※2018年7月29日現在

資金調達としてはもちろん、自分たちが行う活動に対して周囲や社会から「共感を集める」ことの重要性を採択団体に気づいてもらうべく、日本最大規模のクラウドファンディングプラットフォームである CAMPFIRE の事例や、「共感を集める」プロジェクトのコツについてレクチャーを行った。

c. 開 催 日：2018年7月29日(日)

d. 場 所：日本財団バウルーム

e. 参加団体：Colla・vo 5団体 (770,000円)
Yuru・vo 13団体 (1,140,000円) ※プレゼン審査なし
Baca・vo 16団体 (4,680,000円)

ウ. 最終審査会

書類審査、プレゼン審査の結果に鑑み、審査委員5名による審査会にて最終採択団体を決定した。

a. 開 催 日：2018年7月29日(日)

b. 場 所：日本財団ビル第8会議室

c. 採択団体：Colla・vo 5団体 (710,000円) ※1
Yuru・vo 13団体 (1,140,000円) ※2
Baca・vo 9団体 (2,500,000円) ※3

全 27 団体

各コースの採択団体内訳は表のとおりである。

※1 (応募順)

(単位：円)

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	日本社会事業大学 BBS 会	日本社会事業大学	60,000
2	「Do for Smile@東日本」プロジェクト明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム	明治学院大学	60,000
3	とつぷろ。	大阪大学	190,000

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
4	児童文化研究会 CCC	関西国際大学	200,000
5	国際ボランティア団体 Fan×Fun	青山学院大学	200,000

※2 (応募順)

(単位：円)

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	Medcare	和歌山県立医科大学	90,000
2	日本社会事業大学ボランティアセンター 学生スタッフ 1step	日本社会事業大学	60,000
3	明治大学バリアフリー映画祭実行委員会 「しろくまプロジェクト」	明治大学	100,000
4	わか	立正大学	100,000
5	青山学院大学地球社会共生学部有志	青山学院大学	100,000
6	農業をもっと身近にプロジェクト	福島大学	100,000
7	Save the Smile	宮城学院女子大学	50,000
8	Mother Earth West	神戸大学	60,000
9	外国にルーツを持つ子供達のための教科支援 「ふでばこ」	武庫川女子大学	80,000
10	CUBE プロジェクト	立命館大学	100,000
11	東海大学健康科学部社会福祉学科 ボランティアセンター Blossom	東海大学	100,000
12	難民支援団体 Feliceto	千葉大学	100,000
13	うんとイイトコ南相馬！ season2	福島大学	100,000

※3 (応募順)

(単位：円)

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	大阪大学 バングラ班	大阪大学	300,000
2	ことばのみちかけ	北九州市立大学	300,000
3	いろいろあわじ	吉備国際大学	260,000
4	学生団体レアスマイル	津田塾大学	300,000
5	Exedra	東京大学	300,000
6	岩手県立大学・盛岡大学 国際協力サークル smile	岩手県立大学	300,000
7	IUYL (Inter University Youth League)	上智大学	140,000
8	芝園かけはしプロジェクト	東京大学	300,000
9	東海大学チャレンジセンター 3.11 生活復興支援プロジェクト	東海大学	300,000

エ. 審査委員 審査委員については、別表 5 (39 頁) に記載。

2. 大学等連携ボランティア関連講座

本事業は、大学の教育力を広く拡充し、学生のボランティア活動及び社会参画の推進を図る講座やプログラムを大学等と連携して実施した。これは、学生時代のボランティア活動をはじめとする社会参画が、全人的な人間成長に寄与するというセンター設立当初よりの考え方に基づいており、教育改革に積極的な大学やその関係機関と協力協定を締結するなど、協力関係を構築した上で進めている。

(1) 協定締結について

2019 年 3 月 31 日現在で大学 46 校、短期大学 1 校、大学コンソーシアム 1 団体と協定を締結している。なお、大学コンソーシアムひょうご神戸には大学等 40 校が加盟しており、2018 年度までで合計 86 校との協力関係が構築された。2018 年度の大学等との新規協定締結は、4 校であった。

(五十音順)

No	大学名	締結先	締結日	新規
1	愛知淑徳大学	コミュニティコラボレーションセンター	2014年10月1日	
2	青山学院大学	ボランティアセンター	2017年4月1日	
3	亜細亜大学	全学	2017年5月23日	
4	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	2017年10月31日	
5	追手門学院大学	全学	2013年3月1日	
6	大阪大学	大学院ビジネスエンジニアリング専攻	2012年11月1日	
7	大阪府立大学	ボランティアセンター V-station	2011年5月1日	
8	岡山大学	全学	2018年7月1日	○
9	お茶の水女子大学	全学	2017年2月23日	
10	嘉悦大学	全学	2011年7月1日	
11	関西国際大学	全学	2017年4月1日	
12	神田外語大学	全学	2018年2月1日	
13	京都産業大学	全学	2017年4月1日	
14	熊本学園大学	ボランティアセンター	2017年4月1日	
15	公立鳥取環境大学	全学	2018年5月1日	○
16	埼玉工業大学	全学	2018年4月1日	○
17	順天堂大学	スポーツ健康科学部 さくらキャンパス学生部	2011年12月1日	
18	聖学院大学	全学	2017年12月1日	
19	成蹊大学	ボランティア支援センター	2017年4月1日	
20	星槎大学	全学	2017年4月1日	
21	聖心女子大学	全学	2014年3月1日	

No	大学名	締結先	締結日	新規
22	摂南大学	全学	2017年4月1日	
23	大正大学	全学	2017年7月1日	
24	高崎健康福祉大学	全学	2017年4月1日	
25	千葉大学	国際教養学部	2012年3月1日	
26	中央大学	学生部	2014年3月1日	
27	津田塾大学	学外学修センター	2017年4月1日	
28	東京海洋大学	全学	2012年5月1日	
29	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	2017年12月21日	
30	東北福祉大学	総合マネジメント学部	2012年4月1日	
31	東洋大学	全学	2017年4月1日	
32	徳島文理大学	全学	2017年10月1日	
33	鳥取大学	全学	2018年5月1日	○
34	新潟青陵大学	全学	2017年7月1日	
35	新潟青陵大学 短期大学部	全学	2017年7月1日	
36	日本文理大学	全学	2012年4月1日	
37	広島修道大学	全学	2017年12月6日	
38	福山市立大学	全学	2015年9月1日	
39	法政大学	ボランティアセンター	2017年4月1日	
40	松本大学	全学	2017年2月1日	
41	明治学院大学	ボランティアセンター	2011年12月1日	
42	明治大学	ボランティアセンター	2015年12月1日	
43	立教大学	総長室社会連携課	2015年7月1日	

No	大学名	締結先	締結日	新規
44	立正大学	社会福祉学部	2017年11月1日	
45	了徳寺大学	全学	2013年11月1日	
46	麗澤大学	全学	2011年8月1日	
47	早稲田大学	平山郁夫記念ボランティアセンター	2010年6月1日	
48	大学コンソーシアム ひょうご神戸	コンソーシアム	2015年4月1日	

(2) ボランティア関連講座、ボランティアプログラムの開発及び実施

① 学内中心の講座やプログラム

大学内を中心としたボランティアについて学ぶ単位科目や課外講座などの開発や実施を行った。

ア. 実施大学：追手門学院大学、神田外語大学、熊本学園大学、聖学院大学、
聖心女子大学、千葉大学、東北大学、東北福祉大学、立教大学

イ. ボランティア活動の基礎知識を学ぶ講座

a. 神田外語大学

講座名：ボランティア入門講座

実施日程：2018年12月4日(火)

内容：ボランティアにこれから参加する学生向けに、特性を生かした活動の選択や体験から得られることについてセミナーを実施した。

b. 聖学院大学

講義名：ボランティア体験の言語化技法と実践

学期：前期

内容：受講者自身の参加したボランティア体験の振り返り方を学び、言語化技法としてのプレゼンテーションと文章化を実践した。

講義名：釜石学

学期：前期

実施時期：2018年6月28日(木)

内容：阪神淡路大震災から東日本大震災以降の現在に至るまでの、震災とボランティアについての講義を行った。

c. 聖心女子大学

講義名：ボランティア体験の振り返り

学期：前期

内容：自分がこれまでに行ったボランティア活動・社会貢献活動を振り返

り、またその活動を他人に伝えることの意味を考えて言語化を行った。

d. 千葉大学

講義名：学生ボランティア実践入門

学 期：T5

内 容：ボランティア活動を通じたキャリア形成、学生が実際にボランティア活動を始めるにあたり必要となる基礎的な知識や心構えを体系的に学ぶ機会を提供した。

e. 立教大学

講義名：ボランティア論—知ること、考えること、行動すること—

学 期：前期

内 容：ゲストスピーカーを迎えて、実際のボランティアのニーズ、活動を生かすための仕組み、ボランティア自身の気づき、活動が与えるインパクトがどのようにリンクし合っていくのかを、学生が具体的にイメージしながら考察できるような授業を行った。

ウ. 特定のテーマでのボランティア活動や社会課題を考える講座

a. 追手門学院大学

講義名：社会問題リサーチ演習 I

学 期：前期

内 容：社会問題の一例としてのハンセン病問題に関するゲストによる講義、長島愛生園でのフィールド・スタディを行った。

b. 熊本学園大学

講義名：ボランティアスキルアップセミナー「災害ボランティアの基礎」

実施日程：2018年12月3日(月)

内 容：災害が発生した際、迅速に活動ができるよう災害ボランティアの基礎を学んだ。

c. 聖心女子大学

講義名：グローバル共生研究V（災害と人間—3.11以後の社会と文化—）

学 期：前期

内 容：東日本大震災をテーマとして、災害が人間の心、社会、文化に与える影響について多様な視点から考えるとともに、災害リスクを内包している現代社会とどう向き合うかを考察した。

講義名：グローバル共生研究VII（〔連携講座〕日本財団学生ボランティアセンター「地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト」）

学 期：通年

内 容：被災地（福島県いわき市）の現状と課題を、包括性と具体性をもって理解し、「フィールド」という現場と「クラス」という講義をかけ合わせ、被災地における課題を抽出し、解決策を導き出した。

実習日程：①2018年6月30日(土)～7月1日(日)

②夏期休暇中（2018年8月～9月）

③2018年12月

④2019年1月26日(土)

※②、③については、各個人におけるフィールドワーク

活 動 地：①福島県いわき市、双葉郡富岡町、大熊町、双葉町

②福島県いわき市、双葉郡富岡町、岩手県釜石市、陸前高田市、上閉伊郡大槌町

③福島県いわき市

④東京都渋谷区

実習内容：①地域住民への聞き取りや、現地視察を通し、被災地の現状と課題を理解し、その後の解決策提案に対する基礎知識を得た。

②解決策提案に向けた、地域住民へ追加の聞き取りや現地の視察を行った。

③④で実施するイベントに向けた現地映像の撮影や、地域住民との打ち合わせを行った。

④福島の現状を伝えるイベント（ふらっとふくしま「考えてみよう、福島のこと。」）を開催した。

d. 東北大学

講 義 名：東北大学 IEHE×Gakuvo 連携事業 学内研修

活動日程／参加者：2018年 5月15日(火)／32名

7月3日(火)／16名

12月4日(火)／23名

内 容：学生ボランティアリーダー及び被災地アンバサダー育成のため

「震災伝承」「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止」

「学生団体の組織運営」というテーマで研修を行った。

e. 東北福祉大学

講 義 名：まちづくり論

学 期：前期

内 容：復興のまちづくりとして先駆的に取り組み、成果がみられる宮城県岩沼市を事例として取り上げ、現地での人的交流を通じた復興のまちづくりを学んだ。

f. 立教大学

講 義 名：RSL－プロジェクト・プランニング－

学 期：前期

内 容：様々な状況の中で生きている人たちと活動を共にし、そこでの活動を通して現代社会が抱える諸課題への理解と関心を深めた。

実習日程：2018年8月6日(月)～8月20日(月)

活 動 地：インドネシア共和国 ジョグジャカルタ

実習内容：低所得者層の子どもを対象とした教育ワークショップを企画・実施した。

② 学外中心のプログラムや講座

大学外を中心としたボランティア活動の実施や社会課題の現地調査を行い、単位科目もしくは課外活動として実施した。

ア. 実施大学：愛知淑徳大学、岩手大学、追手門学院大学、岡山大学、京都産業大学、熊本学園大学、成蹊大学、聖心女子大学、摂南大学、大正大学、千葉大学、中央大学、東北大学、津田塾大学、広島修道大学、福山市立大学、法政大学、明治大学、早稲田大学、大学コンソーシアムひょうご神戸

イ. 授業やゼミでの実習やボランティアセンターなどが主催したプログラム

a. 愛知淑徳大学

事 業 名：にじいろキャンプ

活動日程：2018年11月17日(土)～11月18日(日)

参 加 者：18名

活動場所：岐阜県大野郡白川村

内 容：外国にルーツを持つ中高生を対象に、将来を考えるきっかけを提供するワークキャンプを行った。

b. 岩手大学

事 業 名：全学科目「三陸の研究」における実習

活動日程：2019年1月26日(土)

参 加 者：2名

活動場所：岩手県陸前高田市

内 容：現地の産直施設見学や語り部によるガイドを行った。

事 業 名：大学院臨床心理プログラムにおける実習

活動日程：2019年3月26日(火)

参 加 者：6名

活動場所：岩手県陸前高田市

内 容：コミュニティセンターのサロンでタッピングタッチ研修、住民との交流会を行った。

c. 岡山大学

事業名：平成30年7月豪雨に係る支援

活動日程／参加者／場所： 2018年7月21日(土)／11名／岡山県総社市
7月28日(土)／14名／岡山県岡山市
8月4日(土)／27名／岡山県倉敷市
8月20日(月)／11名／岡山大学

内容：被災家屋の土砂かき、清掃、家財搬出、ニーズ調査、教育支援などの活動を行った。

d. 京都産業大学

事業名：平成30年7月豪雨災害ボランティア in 岡山

活動日程：2018年11月9日(金)～11月11日(日)

参加者：17名

活動場所：岡山県倉敷市真備町

内容：現地の大学と協力してコミュニティセンターの清掃、ニーズ調査などの活動を行った。

e. 聖心女子大学

事業名：SHOC project スタディツアー

活動日程：2018年9月6日(木)～9月7日(金)

参加者：4名

活動場所：福島県いわき市

内容：現地ボランティアセンター職員による講話、コットンベイク(人形)作り体験を行った。

事業名：USH ひとつづくり・まちづくりボランティア in 南相馬

活動日程／参加者： 2018年6月30日(土)～7月1日(日)／6名
8月24日(金)～8月26日(日)／6名
9月11日(火)～9月13日(木)／6名
12月8日(土)～12月9日(日)／6名
2019年3月20日(水)～3月22日(金)／12名
3月29日(金)～3月31日(日)／6名

活動場所：福島県南相馬市

内容：幼稚園児の見守りサポート、サロン活動、現地視察を行った。

f. 成蹊大学

事業名：東北と日本の未来プロジェクト

活動日程：2018年10月5日(金)～10月7日(日)

11月30日(金)～12月2日(日)

参加者：8名

活動場所：福島県双葉郡楡葉町、双葉郡富岡町、いわき市

内 容：原発災害を学ぶスタディツアー、現地の起業家との交流会、農業体験を行った。

g. 千葉大学

講 義 名：持続的地域貢献活動実習

学 期：通年

内 容：フィールドである過疎地域の課題を発見し、実習を通じて、地域経済・社会活動の向上を図った。

活動日程／参加者： 2018年 5月12日(土)～5月13日(日)／14名

6月23日(土)～6月24日(金)／8名

7月21日(月)～7月22日(金)／9名

9月29日(土)～9月30日(日)／9名

10月20日(土)～10月21日(日)／13名

2019年 2月28日(木) 5名

活動場所：千葉県鴨川市

実習内容：フィールドワークを通して地域課題の理解を深め、子どもたちへ参加型学習や工作教室などを行った。

h. 中央大学

講 義 名：現代社会分析Ⅱ

学 期：後期

内 容：「法の意味・はたらき・課題」を考えるため、フィールドワークとクラスでの講義やグループワークを行った

実習日程：2018年 10月12日(金)～10月14日(金)

2019年 1月17日(木)～1月19日(土)

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町、気仙沼市

参加者：12名

実習内容：10月の実習では震災が与えた影響と復興について学び、問題意識を深めるワークショップを行った。その実習をふまえ学生個々人がそれぞれのテーマを設定のうえ研究し、1月は地域の弁護士を迎えて報告会を実施した。

i. 広島修道大学

事 業 名：平成30年7月豪雨に係る支援

活動日程／参加者／場所： 2018年7月21日(土)／14名／広島県安芸郡坂町

8月3日(金)／22名／広島県安芸郡坂町

8月7日(火)／12名／広島県安芸郡坂町

8月10日(金)／19名／広島県安芸郡坂町

8月17日(金)／19名／広島県安芸郡坂町

8月21日(火)／9名／広島県安芸郡坂町
8月28日(火)／20名／広島県安芸郡坂町
8月31日(金)／12名／広島県安芸郡坂町
8月31日(金)／8名／広島県広島市
9月7日(金)／17名／広島県広島市
9月11日(火)／23名／広島県安芸郡坂町
9月22日(土)／6名／広島県安芸郡坂町

内 容：被災家屋の土砂かき／運搬、家財搬出、壁板や床板はがし、砂防壁の設置、茶話会などの活動を行った。

j. 福山市立大学

講 義 名：専門演習Ⅱ

学 期：後期

内 容：インタビューの技法、収集、整理、分析、文章作成までの手順を演習形式で学び、フィールドワークを行った。

実習日程：2018年11月2日(金)～11月3日(土)

活動場所：京都府京都市

実習内容：多文化共生の祭である東九条マダンにおいて運営補助や参加者との交流を行った。

k. 明治大学

事 業 名：アメリカンフットボール部によるボランティア活動の実施

活動日程／参加者：2018年7月13日(金)～7月15日(日)／40名
2019年3月5日(火)～3月7日(木)／30名

活動場所：福島県いわき市、双葉郡川内村

内 容：農業支援や村の行事である天山祭の手伝いなどを行い、原発災害を考える講話を伺った。

l. 早稲田大学

事 業 名：米式蹴球部によるボランティア活動の実施

活動日程／参加者：2018年7月6日(金)～7月8日(日)／82名
2019年2月26日(火)～2月28日(木)／61名

活動場所：福島県いわき市

内 容：農業支援や海岸清掃活動、小学校でのフラッグフットボール教室などを行い、地域の方々や僧侶から講話を伺った。

ウ. 企画をつくり上げ、実施する活動

a. 追手門学院大学

事 業 名：東北支援プロジェクト～普代村・村づくり支援プログラム～

活動日程／参加者：2018年8月26日(日)～9月3日(月)／6名
2019年3月12日(火)～3月14日(木)／5名

活動場所：岩手県下閉伊郡普代村

内 容：小中学生を対象とした学習支援や交流活動、村づくりに関する課題を抽出し、その解決策の検討、提案までを行った。

b. 大正大学

事業名：ツシマヤマネコ保護活動

活動日程：2018年9月3日(月)～9月7日(金)

参加者：6名

活動場所：長崎県対馬市

内 容：ツシマヤマネコ交通事故対策のためにドライバーへのアピール、道路下の暗渠清掃、交通標識周辺の整備などを行った。

c. 大学コンソーシアムひょうご神戸

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」学生スタッフ研修会

活動日程：2018年4月28日(土)～4月29日(日)

参加者：9名

活動場所：甲南大学 白川台セミナーハウス IⅡ

内 容：リーダーシップ、チームビルディングや災害ボランティアの基礎知識を学ぶための講義や実習を行った。

事業名：学生スタッフ実地研修

活動日程：2018年6月23日(土)～6月24日(日)

参加者：3名

活動場所：宮城県名取市

内 容：東日本大震災で被害の大きかった閑上地区の視察や現地の尚綱学院大学と情報交換を行い、復興公営住宅の現状についても学んだ。

事業名：丹波市スタディツアー

活動日程：2018年6月30日(土)

参加者：34名

活動場所：兵庫県丹波市

内 容：2014年に豪雨被害のあった丹波市市島において、被害や復興の状況を視察し、復興や地域づくりに取り組む方々の話を伺った。

d. 東北大学

事業名：被災地アンバサダー研修

活動日程：2018年6月16日(土)

参加者：15名

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町

内 容：7月の留学生ツアーに向けて、被災地のフィールドワークを行った。

事業名：ボランティアリーダー・被災地アンバサダー合同学外研修
活動日程：2018年6月30日(土)～7月1日(日)
参加者：22名
活動場所：宮城県栗原市
内容：復興支援やコラボ企画について考えるワークショップを行った。

事業名：留学生被災地ツアーin 南三陸
活動日程：2018年7月28日(土)～7月29日(日)
参加者：14名
活動場所：宮城県本吉郡南三陸町
内容：アメリカ・ベイラー大学からの留学生を対象に被災地アンバサダーである学生がツアーを実施した。

事業名：被災地アンバサダー学外研修 in 福島 事前調査
活動日程：2018年8月10日(金)
参加者：9名
活動場所：福島県双葉郡富岡町、いわき市
内容：11月の留学生ツアーに向けて、フィールドワークを行った。

事業名：ボランティアリーダー学外研修 学校防災スタディーツアー
活動日程：2018年9月23日(日)～9月24日(月)
参加者：12名
活動場所：宮城県仙台市、東松島市、石巻市
内容：復興支援やコラボ企画について考えるワークショップを行った。

事業名：ボランティアリーダー研修 活動報告会
活動日程：2018年9月30日(日)
参加者：12名
活動場所：宮城県仙台市
内容：夏季に、子どもの貧困問題解決に向けた取り組みに学ぶボランティアに参加した学生が、活動を振り返り、次につながるワークを行った。

事業名：リーダー・アンバサダー研修 SCRUM 学内研修
活動日程：2018年10月14日(日)
参加者：18名
活動場所：宮城県仙台市

内 容：ボランティアについて、あらためて考える機会を持った。

事業名：留学生被災地ツアーin 福島

活動日程：2018年11月18日(日)

参加者：22名

活動場所：福島県双葉郡富岡町、川内村

内 容：語り部から話を伺い、現地の方を対象としたカフェを行った。

事業名：被災地アンバサダー研修

活動日程：2019年1月5日(土)

参加者：6名

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町

内 容：2月の留学生ツアーに向けて、被災地のフィールドワークを行った。

事業名：ボランティアリーダー学外研修 多大学合同ツアー

活動日程：2019年2月18日(月)～2月19日(火)

参加者：32名

活動場所：宮城県仙台市、石巻市、牡鹿郡女川町

内 容：各地で災害支援学生が、フィールドワークを行い、今後の展開を考える機会を持った。これまでに研修を受けた学生がガイドを行った。

エ. 学生主体のボランティア活動の促進

a. 熊本学園大学

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(子どもの居場所支援)

活動日程：2018年10月10日(水)、17日(水)、24日(水)、31日(水)

参加者：5名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内 容：仮設住宅で暮らす子どもを対象としたハロウィンパーティーを準備し、行った。

b. 摂南大学

事業名：遠隔地におけるボランティア活動

活動日程：夏期集中

参加者：9名

活動場所：岩手県釜石市、和歌山県田辺市

内 容：学生が自主的に活動場所を探し、ボランティアとしてキャンプリーダーや農業支援などの活動を行った。

c. 中央大学

事業名：東北関連活動「はまぎくのつぼみ」

活動日程／参加者： 2018年8月14日(火)～8月18日(土)／9名
9月11日(火)～9月15日(土)／12名
12月21日(金)～12月23日(日)／11名
2019年2月24日(日)～3月1日(金)／11名

活動場所：岩手県宮古市

内 容：仮設住宅・災害公営住宅でのコミュニティ支援として、夏祭りへの参加、交流会を行った。また、防災について考えるスタディツアーも開催した。

事業名：東北関連活動「チーム女川」

活動日程／参加者： 2018年6月22日(金)～6月24日(日)／14名
8月6日(月)～8月9日(木)／8名
9月12日(水)～9月14日(金)／6名
12月22日(土)～2月24日(月)／3名
2019年2月2日(土)～2月4日(月)／1名
2月14日(木)～2月17日(日)／5名

活動場所：宮城県牡鹿郡女川町

内 容：被災地の課題を学ぶスタディツアー、災害公営住宅でのコミュニティ形成支援活動を行った。また、東京で物産展を行った。

事業名：東北関連活動「面瀬学習支援」

活動日程／参加者： 2018年8月15日(水)～8月25日(土)／18名
12月21日(金)～12月30日(日)／28名
2019年3月22日(金)～3月31日(日)／21名

活動場所：宮城県気仙沼市面瀬地区

内 容：自治会館にて、小学生・中学生への学習支援活動や居場所づくりを行った。

事業名：東北関連活動「はまらいんや」

活動日程／参加者： 2018年11月30日(金)～12月2日(日)／2名
12月26日(水)～12月30日(日)／6名
2019年2月9日(土)～2月11日(月)／1名
2月20日(水)～2月25日(月)／9名

活動場所：宮城県気仙沼市

内 容：地区住民へのヒアリング・戸別訪問を通して住民ニーズを把握し、集会所でコミュニティ形成のイベントを実施した。団体理念に基づく目標が概ね達成されたと判断し、2月をもって活動を終了とした。

事業名：熊本関連活動「チームくまもと」

活動日程／参加者： 2018年6月23日(土)～16月24日(日)／3名
12月8日(土)～12月19日(日)／7名
2019年3月9日(土)～3月12日(火)／11名

活動場所：熊本県阿蘇郡西原村

内容：仮設住宅でのコミュニティ形成のきっかけとなるイベントを実施した。

d. 津田塾大学

事業名：ブリッジ・ザ・ギャップ ボランティア創発プロジェクト

内容：ギャップターム（第2ターム及び夏期休暇）期間を活用し、学生が自発的に計画、実行するボランティアプロジェクトを支援する。学生から応募のあったプロジェクトを、大学とセンターで審査し、以下の2つを採択した。

i) 福島協働授業 2018

活動日程：2018年7月12日(木)～11月30日(金)

協力金額：52,383円

内容：7月26日(木)に、ふたば未来学園高校における英語と物語作りを題材としたグループワークを行った。

ii) Summer Cultural Exchange

活動日程：2018年7月12日(木)～8月31日(金)

協力金額：86,079円

内容：8月の3日間（6日(月)、18日(土)、20日(月))、多文化理解のための高校生、大学生、留学生が日本文化体験や交流を行った。

e. 法政大学

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン

活動日程／参加者： 2018年8月20日(月)～8月23日(木)／6名
2019年2月16日(土)～2月18日(月)／5名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：仮設団地にて子ども向けに実験教室や学習支援、高齢者向けに茶話会を行った。

3. 学生ボランティア派遣

本事業は、学生が社会や世界で起きている問題を「他人事」から「自分事」として捉えるようになり、行動を起こしていくための機会を提供した。

派遣先の選定については、自然災害による被災地はもちろんのこと、学生ボランティア

のニーズがある地域へ学生を派遣した。

派遣にあたっては、必ずオリエンテーションと振り返りの時間を設け、参加した学生が学びを深められるようなプログラムを実施した。

(1) チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

昨年度同様に、参加者募集に関するチラシ・ポスターを全国各地の大学に送付したことにより、各地方からの参加者が更に増加し（首都圏を除く1道2府22県）、2019年3月時点で延べ11,732名の学生が参加した。また参加者所属大学数は、昨年度より15大学増加し310大学となった。

活動内容としては、福島県における活動を始めた当初から継続して行っている農業支援や地域活性を目的としたイベント、祭り支援を中心に行った。また、震災や原発事故についてメディアを通してではなく、自分の身をもって確かめたい、知りたいという思いを持った学生が多いことから、「震災について学ぶ」プログラムとして未だ避難生活を余儀なくされている双葉郡域への視察や、地元住民と復興についての意見交換を積極的に行った。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
179	5月2日(水)～5月5日(土)	10	8	・農業支援 ・イベント運営補助 ・被災地視察／講話
180	5月25日(金)～5月27日(日)	10	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
181	6月8日(金)～6月10日(日)	9	6	・農業支援 ・被災地視察／講話
182	6月22日(金)～6月24日(日)	9	6	・農業支援 ・被災地視察／講話
183	8月17日(金)～8月20日(月)	10	5	・農業支援 ・イベント運営補助 ・被災地視察／講話

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
184	9月8日(土)～9月11日(火)	9	8	・農業支援 ・イベント運営補助 ・被災地視察／講話
185	9月21日(金)～9月23日(月)	8	8	・農業支援 ・被災地視察／講話
186	10月19日(金)～10月21日(日)	7	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
187	11月9日(金)～11月11日(日)	9	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
188	11月30日(金)～12月2日(日)	10	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
189	12月21日(金)～12月23日(日)	7	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
190	1月11日(金)～1月13日(日)	3	2	・農業支援 ・被災地視察／講話
191	2月8日(金)～2月11日(月)	8	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
192	3月8日(金)～3月11日(月)	10	7	・農業支援 ・イベント運営補助 ・被災地視察／講話

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
193	3月20日(水)～3月23日(土)	10	8	・農業支援 ・被災地視察／講話

2018年度延べ参加者数：447名 参加者所属大学総数：68大学

※チーム「ながぐつ」プロジェクト福島の延べ参加者数は「参加人数×活動日数」で算出している。

(2) Global Leadership Program

慣れ親しんだ日本とはまったく違う環境で、異なるバックグラウンドをもつ参加者と協働することで、多様性に触れるきっかけとして、事業を実施した。また、共同生活や一つのことを共に作り上げることによって、コミュニケーションを学ぶと同時に、世界が抱える様々な社会問題について考える機会を提供した。

2018年度のプログラムは、社会起業家にインタビューを行う「社会起業家編」、低所得者層の子どもを対象としたワークショップの企画・運営を行う「文化・教育編」の2プログラムのふりかえり会と、活動報告会を行った。

① 2017年度 Global Leadership Program

ア. ふりかえり会

2018年2～3月に実施した2プログラムの参加者を対象に、活動を通して学んだことや気づいたこと、またそれを今後の学生生活や将来にどう繋げていくのかを考えるふりかえり会を行った。

- a. 開催日／参加者 2018年4月7日(土)／社会起業家編
4月14日(土)／文化・教育編

b. 場所：センター会議室

c. 内容：各個人の振り返りと内容の共有

イ. 活動報告会

2018年2～3月に実施した2プログラムについて、参加者が現地での活動内容やそこからどんなことを学んだかを発表した。

a. 開催日：2018年4月21日(土)

b. 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

c. 登壇者：「社会起業家編」参加者8名及び「文化・教育編」参加者10名

d. 一般参加者：20名

e. 内容：各プログラム参加者より現地活動及びそこから得た学びや今後の展望について報告を行った。

(3) プラチナ未来人財育成塾における学生チューター派遣

①プラチナ未来人財育成塾@二子玉川

未来人財育成塾では、プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的として、全国から集まった中学生 85 名に対して、産業界、研究・教育機関、行政の各分野の 10 名ほどによる講義が行われた。

学生は、講師と中学生をつなぐ役割を担い、中学生の学習支援や個別相談などを行った。

ア. 第 1 回事前研修

- a. 活動日程：2018 年 6 月 2 日(土)、6 月 3 日(日)
- b. 場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス、世田谷区立野毛青少年交流センター
- c. 参加者：24 名
- d. 所属大学数：21 大学
- e. 内 容：プラチナ未来人財育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施

イ. 第 2 回事前研修

- a. 活動日程：2018 年 7 月 15 日(日)
- b. 場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス
- c. 参加者：26 名
- d. 所属大学数：22 大学
- e. 内 容：プラチナ未来人財育成塾@二子玉川のシミュレーション

ウ. プラチナ未来人財育成塾@二子玉川

- a. 活動日程：2018 年 8 月 5 日(日)～ 8 月 9 日(木)
- b. 場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス、世田谷区立野毛青少年交流センター
- c. 参加者：26 名
- d. 所属大学数：22 大学
- e. 内 容：グループワークの進行と準備

②森の学校・きくち

主催者である菊池市、協力者であるプラチナ構想ネットワーク、センターとの 3 者間で、学生ボランティアについての認識に差異が見られた。センターが考える学生の学びを深めるプログラムを構築することができないと判断したことから、今年度の学生チューター派遣を見送った。

(4) チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援

近年日本各地で発生する大規模な自然災害等で、助力が必要な地域において、その必要性に応じて、学生を被災地へ派遣した。

①平成 30 年 7 月豪雨ボランティア派遣

2018年6月28日(木)～7月8日(日)にかけて西日本を襲った豪雨により、河川の氾濫、浸水被害、土砂災害が発生し、死者、行方不明者多数といった甚大な被害をもたらされた。浸水や土砂が流れ込んだ家屋の泥かき、片付けなどに延べ50万人のボランティアの手が現地が必要であると言われていたことから、これら現地ニーズに対応すべく、8月から9月にかけて岡山県及び広島県へ計11回の派遣を行った。

派遣パターンとしては、多くの大学が立地し、参加者確保を見込める大阪市を中心とした学生たちを対象に大阪市や神戸市に集合し解散する方式、東日本大震災時に全国から支援を受け、今度は自らが力になり恩返ししたいという思いを持つ東北の学生たちを対象にした仙台市に集合し解散する方式、被災地域の近隣県にあたり、鳥取中部地震の際に支援を受けたからこそ、今度は自らが力になりたいという思いを持つ鳥取県の学生たちを対象にした鳥取市に集合し解散する方式の4パターンを用意し、全国から参加者を募った。なお、神戸市及び仙台市からの派遣は宿泊型とし、大阪市及び鳥取市からの派遣については日帰りとして実施した。

活動内容は、被災家屋の清掃や泥かき、家財の搬出、天井や壁板はがしなどの作業を行った。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	8月8日(水)) 8月12日(日)	54	5	・被災家屋の泥かき ・被災家屋の清掃 ・側溝と用水路の泥かき
2	8月10日(金)	14	2	・被災家屋の清掃 ・壁等の撤去
3	8月17日(金)	19	10	・被災家屋の清掃 ・壁等の撤去
4	8月21日(火)) 8月22日(水)	30	9	・被災家屋の泥かき ・被災家屋の清掃 ・被災家屋の台風対策
5	8月28日(火)	20	11	・被災家屋の清掃
6	8月29日(水)) 8月30日(木)	16	7	・被災家屋の泥かき

7	9月4日(火)) 9月5日(水)	28	10	・側溝の泥かき
8	9月14日(金)	16	15	・被災家屋の天井及び壁等の撤去
9	9月15日(土)) 9月17日(月)	24	6	・被災家屋の泥かき ・被災家屋の清掃
10	9月22日(土)) 9月24日(月)	15	4	・被災家屋の清掃 ・太陽光発電設置場所の泥かき
11	9月23日(日)	13	4	・被災家屋の壁等の撤去

延べ参加者数：249名 参加者所属大学総数：56大学

※第1陣は仙台集合／解散、第2陣・11陣は鳥取集合／解散、第3陣・5陣・8陣は大
阪集合／解散、第4陣・6陣・7陣・9陣・10陣については神戸集合／解散

※第12陣については、台風24号が活動地へ接近していたことから二次被害防止の
ため中止とした。

4. セミナー／シンポジウム

本事業は、学生ボランティアのスキルアップやネットワーク構築を目的としてセミナー
やシンポジウムを開催した。

(1) PR力コンテスト「V-1」

諸般の事情により、今年度の実施を見送った。2018年6月5日(火)に開催したセンタ
ー第13回理事会において、PR力コンテストを開始した2010年当時は映像を中心とし
た表現に注目が集まり、多数の参加者があったものの年々減少傾向にあることや、映像
に限らず伝える力そのもののトレーニングが適切であると判断したことから、事業内容
を再構築するため、実施しなかった。

(2) ボランティア・シンポジウム

センター協定大学の連携事業に参加した学生をはじめ、全国でボランティアに取り組
む学生や関心のある学生が、大学の地域・専門を超えて学びあい、ネットワークづくり
につながるシンポジウムを行った。

- ① 開催日時：2019年2月11日(月)～2月12日(火)
- ② 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ③ 参加者：50名
- ④ 参加大学：愛知淑徳大学、青山学院大学、大妻女子大学、京都産業大学、神戸国際大学、公立鳥取環境大学、実践女子大学、聖学院大学、成蹊大学、聖心女子大学、摂南大学、大正大学、鳥取大学、新潟青陵大学、中央大学、東京薬科大学、東北大学、東北福祉大学、長崎大学、日本医療科学大学、日本女子大学、日本文理大学、前橋工科大学、明治学院大学、立教大学、龍谷大学
- ⑤ 内 容：参加者の自己紹介と活動報告、互いの活動や悩みへのフィードバックを行うグループワーク、ボランティアを行う際の考え方やあり方について考えるトレーニングを行った。
- ⑥ 講 師：西川 正氏
(特定非営利活動法人ハンズオン！埼玉 理事)

(3) 災害ボランティア養成セミナー

災害時に学生がボランティアとして迅速に活動できるよう、協力協定を締結していない大学にて、災害ボランティアの初歩を学ぶセミナーを行った。

- ① 開催日：2018年12月11日(火)
- ② 場 所：二松学舎大学九段キャンパス
- ③ 参加者：84名
- ④ 内 容：災害ボランティアからのキャリア形成を講義した。
- ⑤ 講 師：小田川 茜氏
(東京家政大学 学生) ※2018年12月11日現在
下道 寛人氏
(法政大学 学生) ※2018年12月11日現在

5. インターンプログラム

本事業は、学生目線からボランティアの支援を行うため、2018年度インターンを採用した。インターンはボランティア・シンポジウムやその他自主イベントの企画・運営、センター事業等の補助を行った。

(1) インターン

2018年度インターンは、別表6「インターン名簿」(40頁)のとおり、8名である。

- ① 活動期間／参加者：2018年4月7日(土)～2019年3月28日(木)／8名

(2) 合宿

- ① 開催日：2018年4月21日(土)～4月22日(日)
- ② 参加者：8名
- ③ 場所：世田谷区立野毛青少年交流センター
- ④ 内容：プレゼンや企画づくりのトレーニングを行い、年間を通して活動していくスキルを身に付けるとともに、グループとしてのゴールを議論した。

(3) acare(アクア)

- ① 公開日：2019年1月15日(日)
- ② 協力：株式会社ヘラルボニー
CHART project® 主宰 ひとしづく株式会社
株式会社ファーストリテイリング
被爆体験伝承者・ヒロシマピースボランティア ※取材順
- ③ 内容：「社会の明日を考える。学生のためのメディア」というコンセプトを基に、社会問題やその解決に取り組む人物を取材し、記事を作成した。

(4) ふくしま、なにいろ？～新しいふくしまの色、見つけよう！～

- ① 開催日：2019年3月26日(月)
- ② 参加者：27名
- ③ 場所：いいオフィス上野
- ④ ゲスト：丸山 雄三氏
(ゆうゆうファーム代表) ※2019年3月26日現在
- ⑤ 内容：「福島＝震災」というイメージを持つ学生に対し、福島の食や自然にまつわるクイズ、福島県で農家を営む方によるトークセッション、福島県産食品の試食などを通し、福島県のような魅力に気づいてもらった。

(5) 2019年度インターン募集

- ① 募集期間：2019年1月10日(木)～3月12日(火)
- ② 募集定員：8名
- ③ 応募人数：15名
- ④ 採用人数：9名
- ⑤ 対象：インターン実施期間において、大学や大学院に在籍していること。
- ⑥ 選考：応募者全員に対して、役職員による面接を実施した。
適性や性別、学年のバランスを考慮して採用を決定した。

6. 教育活動支援

本事業は、学生の成長や高等教育機関にとっての教育効果を重視し、協力協定を締結していない大学の教職員、学生らと、年間を通じてボランティアプログラムの協働開発を実施した。

(1) 愛媛大学

以下の活動については、本大学より企画や実施における支援の依頼があったため、本事業にて実施した。

平成30年7月豪雨による被害を受けた愛媛県大洲市、西予市、宇和島市をフィールドとし、救援物資の搬入及び仕分け、被災家屋の泥かき、清掃、家財搬出などの災害復旧ボランティア活動を行った。

活動日程／参加者／場所： 2018年7月13日(金)／36名／愛媛県大洲市
7月14日(土)／16名／愛媛県大洲市
7月14日(土)／4名／愛媛県大洲市
7月14日(土)／42名／愛媛県西予市
7月15日(日)／21名／愛媛県大洲市
7月15日(日)／6名／愛媛県大洲市
7月15日(日)／42名／愛媛県西予市
7月16日(月)／26名／愛媛県大洲市
7月16日(月)／42名／愛媛県西予市
7月20日(金)／14名／愛媛県西予市
7月21日(土)／16名／愛媛県宇和島市
7月23日(月)／7名／愛媛県西予市
7月24日(火)／11名／愛媛県西予市
7月25日(水)／21名／愛媛県西予市
7月28日(土)／18名／愛媛県大洲市
7月28日(土)／6名／愛媛県西予市
7月28日(土)／12名／愛媛県宇和島市
8月4日(土)／5名／愛媛県西予市
8月5日(日)／5名／愛媛県西予市
8月5日(日)／25名／愛媛県宇和島市
8月6日(月)／8名／愛媛県西予市
8月7日(火)／12名／愛媛県宇和島市
8月8日(水)／4名／愛媛県大洲市
8月9日(木)／47名／愛媛県宇和島市
8月11日(土)／15名／愛媛県西予市
8月18日(土)／16名／愛媛県宇和島市

8月20日(月)／3名／愛媛県宇和島市
8月25日(土)／27名／愛媛県大洲市
8月27日(月)／7名／愛媛県大洲市
8月28日(火)／4名／愛媛県大洲市
8月29日(水)／7名／愛媛県大洲市
8月30日(木)／8名／愛媛県大洲市
8月31日(金)／5名／愛媛県大洲市
9月3日(月)／12名／愛媛県西予市
9月15日(土)／9名／愛媛県大洲市
9月22日(土)／16名／愛媛県大洲市
9月22日(土)／14名／愛媛県西予市
10月13日(土)／4名／愛媛県大洲市
10月20日(土)／4名／愛媛県大洲市

IV. 【その他センターの目的達成に必要な事業】

1. 情報発信

ボランティアに興味・関心を寄せる学生たちがホームページへ訪れるよう、学生の利用頻度が高いスマートフォンでも閲覧しやすいホームページの開発に力を入れた。

2018年度は、プラチナ未来人財育成塾に関するページの構築や、新コンテンツ「acare(アクア)」の企画・構築、ユーザーが特に良く閲覧している「イベント・募集中」ページの情報をより得やすいよう、スマートフォンサイトの改修等を行った。これらにより、ユーザー数が昨年度の37,450人から40,674人へ約3,000人増加した。

(1) acare(アクア)

公益目的事業5-(3)に記載しているとおり、「社会の明日を考える。学生のためのメディア」というコンセプトを基に、社会問題やその解決に取り組む人物をインターンが取材し、記事を作成した。

社会問題やボランティアなどにあまり興味を持たない学生にも読んでもらえるよう、ポップなページデザインや閲覧する際に動きのあるシステムを導入するなどの工夫をふんだんに取り入れた。

別表 1

役員名簿

(2019年3月31日現在)

役職	氏名	現職
代表理事 (会長)	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
常務理事	小西 龍治	立命館アジア太平洋大学 客員教授
〃	古川 秀雄	公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
理事	赤澤 清孝	大谷大学 准教授
〃	井原 理代	香川大学 名誉教授、高松大学 教授
〃	工藤 健夫	一般社団法人 SoLaBo 代表理事
〃	栗田 充治	亜細亜大学 名誉教授
〃	小島 祥美	愛知淑徳大学 准教授
〃	西尾 雄志	近畿大学 准教授
〃	二宮 雅也	文教大学 准教授
〃	吉村 充功	日本文理大学 教授
〃	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事
監事	浅井 清澄	至誠清新監査法人 公認会計士
〃	鈴木 浩司	公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事

別表 2

評 議 員 名 簿

(2019年3月31日現在)

氏 名	現 職
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長
清水 潔	弁護士
原田 勝広	ジャーナリスト (明治学院大学元教授)
松本 美奈	読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局
村上 公一	早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター長

別表 3

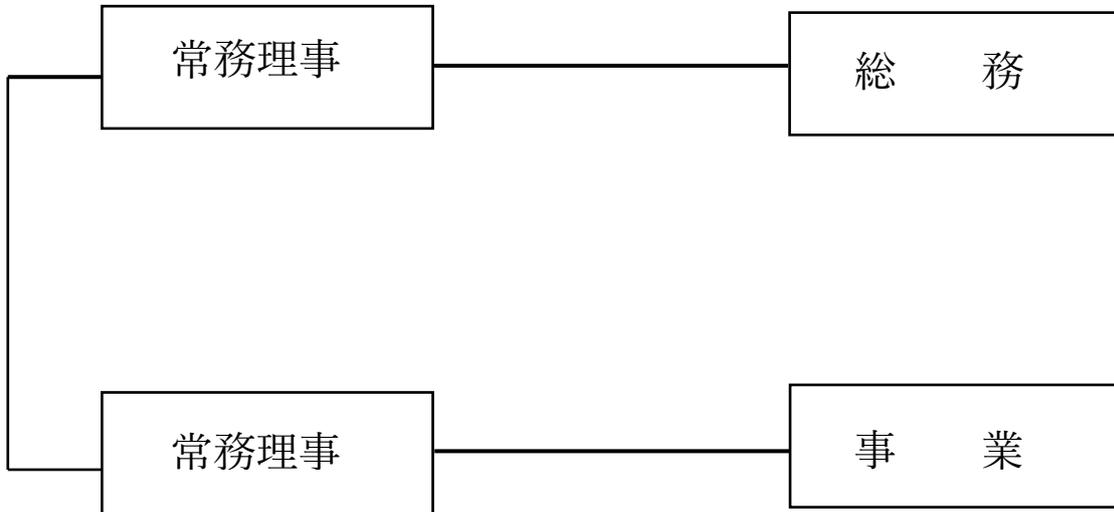
学 生 委 員 名 簿

(2019年3月31日現在)

氏 名	所 属
大谷 夏子	中央大学 4年
カトリ ラメス	神戸国際大学 3年
熊谷 麻耶	宮城教育大学 3年
河野 雅也	熊本学園大学 4年
関 浩明	立教大学 3年
瀬戸 瑞紀	聖心女子大学大学院 修士1年

別表 4

事務局機構図



別表 5

第5回 Gakuvo Style Fund 審査委員名簿

(2018年7月29日現在)

氏 名	所 属
杉山 恵理子	明治学院大学 ボランティアセンター長
谷口 浩一	株式会社 MTG 部長
野沢 慎司	明治学院大学 副学長
古川 秀雄	公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター 常務理事
藪本 雅子	アナウンサー・記者 (元日本テレビ)

別表 6

インターン 名 簿

(2019年3月28日現在)

氏 名	所 属	インターン開始日
青木 菜々恵	早稲田大学 1年	2018年4月7日
池田 実夢	大妻女子大学 2年	2018年4月7日
小田木 咲子	日本女子大学 2年	2018年4月7日
笹森 諒	成蹊大学 3年	2018年4月7日
関 浩明	立教大学 3年	2018年4月7日
永田 久実	明治学院大学 4年	2018年4月7日
西山 萌花	日本女子大学 1年	2018年4月7日
増山 真帆	実践女子大学 3年	2018年4月7日

2018 年度事業報告 附属明細書

2018 年事業報告は、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2019 年 5 月

公益財団法人
日本財団学生ボランティアセンター

前記のとおり相違ありません。

2019年5月22日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

代表理事（会長） 小 宮 山 宏

2018年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 浅 井 清 澄

監 事 鈴 木 浩 司

